

職場の省エネとして、手軽に取り組めるのが照明まわりの改善。低電力で明るい省エネタイプの電球や蛍光灯に取替たり、反射板を貼り付けるなどの対策で電力を大幅にカットすることができる。

■ 新タイプの省エネ照明

一番注目されている省エネ照明といえば、やはりLED（発光ダイオード）である。LEDは、主に携帯電話やデジタルビデオカメラ、PDAなどの電子機器のバックライト、大型ディスプレイ、道路表示器などの表示用を中心として普及しているが、今後は、一般照明用光源や自動車用ランプとしての普及が期待されている。最近では街の電気量販店でも販売されお馴染みになってきた。LEDは従来の蛍光灯や白熱灯と異なり、紫外線や赤外線が少なく、発熱もほとんどないエネルギー効率の良いエコ照明の代表選手である。

また、普及はこれからだが、CCFL（冷陰極蛍光ランプ）も次世代の蛍光灯として注目されている照明器具である。CCFLはパソコンや液晶テレビのバックライトに使用されているものだが、それを複数本使用することで蛍光灯としての用途に使えるようにしたものだ。従来の蛍光灯と比べて消費電力が約半分、有害な紫外線も出さない。しかも40,000時間と長寿命であり、コスト的にもLEDの1/2で済むといわれている。

■ 水銀灯に代わる照明

また、街路灯や屋内灯として使われている水銀灯に代わる照明として実用化が進められているのがキセノンライトである。キセノンライトは車のヘッドライトやカメラのストロボに使用されているライトだが、太陽光に色光度を持ち、近い広域照明として適している。また、消費電力は水銀灯の1/10で約20,000時間の長寿命が特徴だ。また、水銀灯のように明るくなるまでに時間がかからないのもメリットの一つである。



■ 貼るだけで節電

「ムダな照明を消す」「蛍光灯の本数を間引きする」などは節電の常識だが、古河電工が開発した「エコ・ピタ」は蛍光灯の裏側に貼るだけで照度がアップするローコストな省エネ製品である。もともと液晶バックライト用の反射板として開発された「超微細発泡光反射板」を省エネ製品として企画・販売。蛍光灯照明器具に貼るだけで照度が26～35%アップ。蛍光灯の本数削減で30～50%の照明電力の削減が可能という。しかも取付け簡単で工事代不要、1枚の単価は2,000円前後であるため、多くのオフィスや店舗、工場などの導入が増えているらしい。

